薩摩硫黄島の噴火警戒レベル

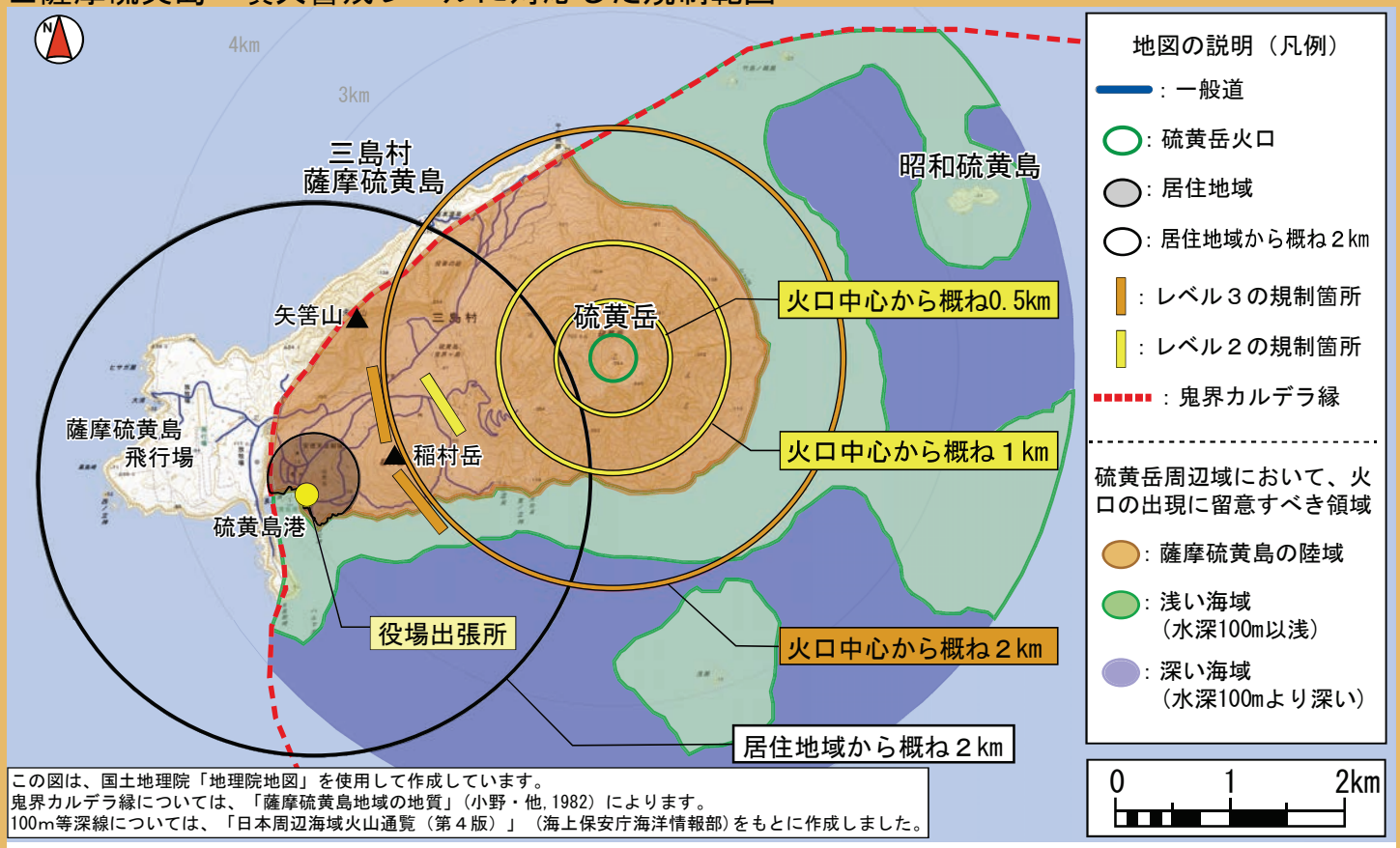
― 火山災害から身を守るために ―

噴火警報等で発表する 噴火警戒レベル

●噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル１から５の５段階に区分したものです。
●各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル５は「避難」、レベル４は「高齢者等避難」、レベル３は「入山規制」、レベル２は「火口周辺規制」、レベル１は「活火山であることに留意」）。
●対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。



■薩摩硫黄島　噴火警戒レベルに対応した規制範囲



この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。
鬼界カルデラ縁については、「薩摩硫黄島地域の地質」（小野・他, 1982）によります。
100m等深線については、「日本周辺海域火山通覧（第４版）」（海上保安庁海洋情報部）をもとに作成しました。

●噴火警戒レベルに応じて下記のような防災対応が必要になります。

①硫黄岳火口における噴火

レベル５（避難）：危険な居住地域からの避難等。
レベル４（高齢者等避難）：警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等。
レベル３（入山規制）：火口中心から概ね２km以内の立入規制。◯ の範囲内
レベル２（火口周辺規制）：火口中心から概ね0.5kmまたは１km以内の立入規制。◯ の範囲内
レベル１（活火山であることに留意）：状況に応じて火口内への立入規制等。

②硫黄岳周辺域における噴火

硫黄岳周辺域（薩摩硫黄島の陸域、浅い海域・深い海域）に火口が出現する可能性があります。噴火が発生した場合は、発生場所や規模・様式に応じて、必要な防災対応がとられます。
例えば、居住地域から概ね２km以内の浅い海域で噴火が発生した場合は、危険な居住地域からの避難等が必要です。

■薩摩硫黄島の噴火警戒レベル及び本リーフレットは、地元自治体等で構成する薩摩硫黄島火山防災協議会において作成しました。
各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については鹿児島県及び三島村にお問い合わせください。

最新の噴火警戒レベルの確認先（気象庁HP）

気象庁 Japan Meteorological Agency

問い合わせ先
福岡管区気象台　地域火山監視・警報センター
TEL：092-725-3606　https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/
■鹿児島地方気象台　TEL：099-250-9919
https://www.data.jma.go.jp/kagoshima/


薩摩硫黄島　2023年１月11日に南東上空から撮影
海上自衛隊第１航空群の協力による

平成19年12月１日運用開始
令和８年３月31日改定

薩摩硫黄島の噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	レベル（キーワード）	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報（居住地域）又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5（避難）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●硫黄岳火口で噴火が発生し、大きな噴石、火砕流、溶岩流が居住地域に到達、あるいはそのような噴火の発生が切迫している。 過去事例 観測事例なし ●薩摩硫黄島の陸域または周辺海域で噴火が発生し、大きな噴石、火砕流、溶岩流が居住地域に到達、あるいはそのような噴火の発生が切迫している。 過去事例 1934年：体に感じる規模の地震が多発（昭和硫黄島形成前）
			4（高齢者等避難）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要。	●硫黄岳火口、薩摩硫黄島の陸域または周辺海域で噴火が発生し、溶岩流が居住地域の近くまで流下。 ●硫黄岳火口、薩摩硫黄島の陸域または周辺海域で大きな噴石、火砕流、溶岩流が居住地域に到達するような噴火の発生が予想される。 過去事例 観測事例なし
警報	噴火警報（火口周辺）又は火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3（入山規制）	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。 登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。	●硫黄岳火口で噴火が発生し、火口中心から１kmを超え概ね２km以内に大きな噴石が飛散。 ●硫黄岳火口で、火口中心から１kmを超え概ね２km以内に大きな噴石の飛散や火砕流が流下するような噴火の発生が予想される。 ●硫黄岳（硫黄岳火口外）[注3)]で噴火が発生し、居住地域に達しない範囲に大きな噴石が飛散。 過去事例 観測事例なし
		火口周辺	2（火口周辺規制）	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。 火口周辺への立入規制等。	●硫黄岳火口で噴火が発生し、火口中心から概ね１km以内に大きな噴石が飛散。 過去事例 観測事例なし ●硫黄岳火口で、火口中心から概ね１km以内に大きな噴石が飛散するような噴火の発生が予想される。 過去事例 2003～2004年：継続時間の長い火山性微動、振幅の大きな火山性微動の発生 ●硫黄岳火口で、火口中心から概ね0.5km以内に大きな噴石が飛散するような噴火の発生が予想される。 過去事例 2013年５月：火山性地震が増加 1998～2004年、2013年、2019～2020年、2024～2025年：ごく小噴火 ●居住地域から概ね２km以遠の海域で噴火が発生。 過去事例 1934～1935年：東側海域で噴火（昭和硫黄島形成）
予報	噴火予報	火口内等	1（活火山であることに留意）	火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏。状況により火口内に影響する程度の噴出の可能性あり。

注１）ここでいう「大きな噴石」とは、概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する大きさのものとする。
注２）海域で噴火が発生した場合は、保全対象までの距離を考慮した上でレベルを決定する。
注３）硫黄岳火口外の硫黄岳山体において、噴気及び地熱活動がみられている領域を示す。

気象庁
Japan Meteorological Agency
令和８年３月